

は伏流となっている。ほどなく水流もあらわれ、F1 6mとなる。これは右側を直登する。上流はナメ床が断続的に続き、段々を所々にミックスしている。ナメとナメの間に小さな落差の滝、F2, F3を落し、この沢の核心部であろう。やがてF4 6mのナメ滝に着く。左右どちらでも登れる。仕事道らしい。荒れた跡跡がところどころに見えている。

8:50, 二俣に着く。右俣が本流でそっちに入る予定だったが、判断がまずくて左俣をつめてしまう。背たけほどのカヤのやぶを沢ぞいにつめ、かん木帯をぬける。9:50, 696mピークと670.3mピークのコルに到着。一息いれて下滝野沢（仮称）への下降に移る。
（記）

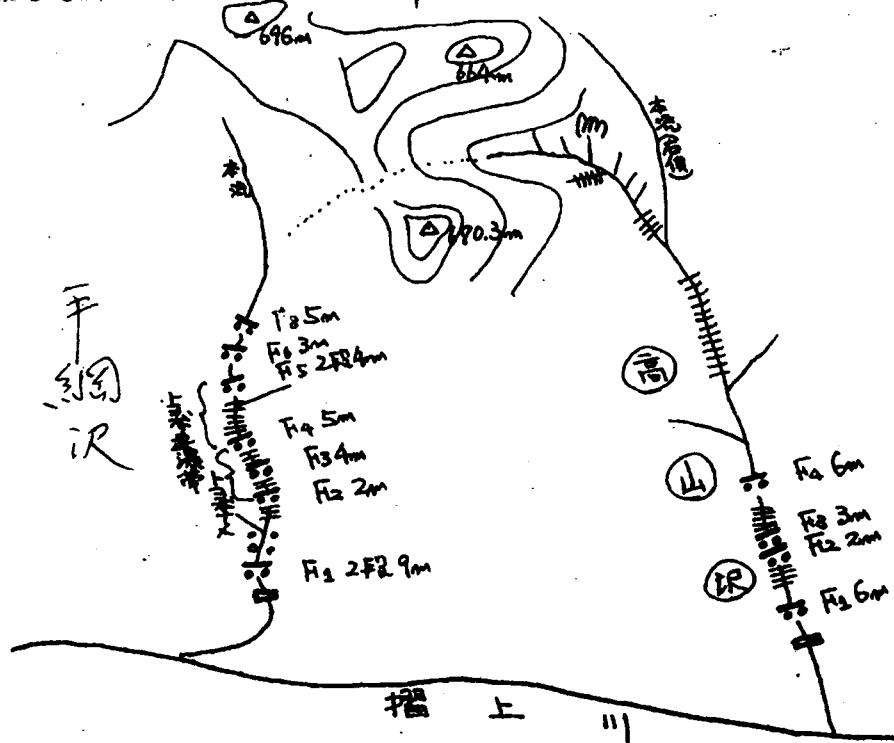
高山沢取付えん提(7:20)——二俣(8:50)——コル(9:50)

手筋
下滝野沢（仮称・下路）

1982年8月29日

L:

コルから下滝野沢（仮称）へ下降する。こちらは高山沢側と植生が異り、やぶこぎもなしで沢に降り立つ。10時25分、下降開始。

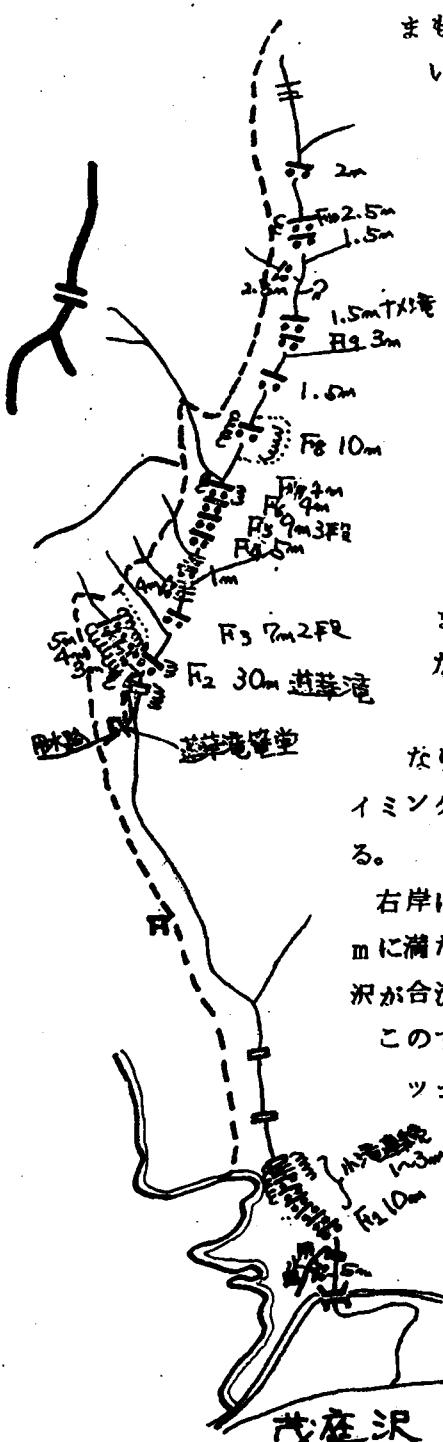


こちらの沢は両岸がせばまり、ナメも落差のある連滝帯が続き、高捲いて下降。下流部には取水用の塚ビ管がぶらさがっている。連滝帯を過ぎると河原となり。まもなくF1。2段9mの滝で、滝下が取水ぜきとなっている。取水ぜき下は広い河原で、そこを通りぬけて摺上川本流に出る。下降終了11時55分。

(記)

コル(10:00) — 下滝野沢(仮称)出合(10:25) — 取水ぜき(11:35) — 摺上川本流(11:55)

1982年5月23日
茂庭沢上流部(下降)



小沢を下降して林道へ出、この林道をそのまま県境まで歩いてから茂庭沢の下降に入る。林道は少し広くなつた所から先は廃道化していた。

沢に入るとすぐに水が出てきた。少し下ると二俣となり、その下に小滝がある。2m。右岸の木を使ってクライミングダウン。しばらくするとF10 2.5m。左岸を下降する。

右岸に林道の広くなつている所のガレ場が見えている。1mに満たない滝が4つ連續して現われ、その先で右岸より小沢が合流する。この小沢、本流より水量が多い。3倍もある。

このすぐ下左岸にはトンネルの跡らしいものがあり、トロッコの残がいもあって、レールも残っていた。昔、このあたり一帯には、大小の金や銀の鉱山があったそうである。有名なのは半田銀山であるが、ここのもその一つであったのだろうか。

小休止後、再び歩き出す。しばらくすると、F7 10mが出てくる。下はゴルジュ状。左岸を捲いて下りる。ここらあたりからが核心部で、F7 4mは左岸をクライミングダウン。次のF6 4m